

マツコナカイガラムシ

マツ類の葉の根元付近に群生する白粉に覆われた小判状の虫（幼虫と成虫）。体長は最大4mm。

庭木などで多発することがある。煤病を併発し、美観を損ねるほか、新梢の伸長が悪くなる。



1. マツコナカイガラムシ(?)の幼虫, 体長2mm.

2000/8/10. 様子町, 公園のクロマツ.

【学名】 *Crisicoccus pini*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera), コナカイガラムシ科 (Pseudococcidae)

【分布】 本州, 四国, 九州; 朝鮮, 北アメリカ (侵入).

北海道ではこれまで分布記録はないが, 1990年代以降, 十勝や日高で本種らしい昆虫による被害を観察している。詳細な分類学的検討はしてないが, 暫定的に本種として掲載した。

【生態】

宿主: マツ属 (アカマツ, クロマツ, ゴヨウマツなど)。

吸汁性昆虫。道内における詳しい生態は不明。

本州 (暖地を除く) では年1回発生。幼虫越冬。春に成虫になり産卵。幼虫は6月上旬頃から現れるという。

【被害と防除】

庭や公園などでときどき多発する。すす病を併発するので, 木が黒く汚れる。枝の生長が阻害されることもある。

一部の枝に集中することが多いので被害枝を切り取る。日当たりや風通しの悪い場所に発生する傾向があるため, 枝葉をすかすのが良いとされる。

農薬による駆除が必要と判断される場合, マツコナカイガラムシ用の農薬としてはイソキサチオン乳剤などがある。農薬は取扱説明書に従って使用し, 散布にあたっては通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

【文献】

1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑. 保育社, 大阪. (形態, 生態, 防除の解説)

1980. 河合省三. 日本原色カイガラムシ図鑑. 全国農村教育協会, 東京. (分類, 形態, 寄主の解説)

1994. 河合省三. マツコナカイガラムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集, 森林昆虫, 総論・各論: 414. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツコナカイガラムシ kaigara/matukona/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/2/5.

musi1.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000.